

湾岸における社会的変遷と民主化の動き

— U A Eにおける民主化の経験 —

大野元裕

I

近年、アラビア半島の湾岸諸国では、人民の政治参加の拡大を要求するいわゆる「民主化の動き」が目立っている。この民主化の動きはそれぞれの国により異なった形を呈しているが、湾岸の国々ではこのような動きに応え、民主主義の拡大をある程度許容する政策を打ち出している。

サウディ・アラビアでは、1991年夏にイスラーム法学者達により国王あての建白書が提出され、独立した諮問評議会の設立が要求されたが¹⁾、ファハド国王は結果としてこの要求に応え、翌年3月1日に諮問評議会の設置を発表、1993年8月20日には同評議会設立に関する勅令を公布し、評議員の任命を行った後、1994年1月2日には、この評議会が召集・開催されるに至った。

クウェイトでは、1986年に首長令により解散させられた国民議會を憲法に基づき再開させる運動が起こり、1992年10月に選挙が行われ国民議會が再開した。バハレーンでも1975年11月より休止していた議会在首長に任命された議員により1992年に再開され、オマーンでも、1990年11月18日のスルターン・カブースの国祭日の演説において、1980年に設置された国家諮

問評議会に代わる諮問評議会の設立が発表された。

このような湾岸における民主化運動を含めたアラブ諸国の民主化運動に関し、ワリード・カッジーハ教授が述べるところを、いささか乱暴ではあるが本稿の議論と関係があると思われる部分をごく簡単に紹介すると以下の通りとなる²⁾。

(イスラエルからの脅威を口実に、) アラブ諸国の支配者達は独裁的な支配を続けてきたが、イスラエルと対決する可能性が少なくなると共に、思想表現の自由を獲得するためにも、アラブの知識人達は政治参加の拡大を求めた。他方、旧東側諸国における大規模な民主化の嵐及び湾岸危機を契機として強まった外国からの民主化推進の圧力は、湾岸諸国をしてうわべだけの政治制度改革を行わさせるに至った。しかし、周辺の諸勢力が支配者に押し付けたこの民主的改革はごく少数のアラブ・エリートのみでしかなかった。

このカッジーハ教授の議論に対し、我々は以下のおそらく相互に関連し合う3つの設問を行い、アラブ首長国連邦 (United Arab Emirates。以下UAE) における民主化の動きに関する議論を進めていきたい。

- (1) アラブにおける民主化の動きとは、その動きが見られるすべてのアラブの国に共通の背景、理由を元に起こっている現象であろうか。言い換えれば、首長制や王政を敷き、部族色の強いほとんど100パーセントムスリムにより構成される、必ずしも他のアラブ諸国と政治・社会体制が同じではない富裕な湾岸諸国において共通の、あるいはそれぞれの国ごとに民主化を要請する理由は存在しないのであろうか。
- (2) 湾岸諸国に西欧型の民主主義が存在しない、あるいは存在しなかったことをもって、後進的な政治体制の国々と位置付け、湾岸における民主化を、知識階級による民主主義導入が行われていると見なすことは妥当であるか。

また、湾岸諸国が求めているのはそもそも、西欧型の民主主義であるのか。

(3) カッジーハ教授が指摘するように、湾岸戦争を契機として外圧が民主化の動きを促進したことは事実としても、それは湾岸で民主化を進めた主たる理由であったのか。

II

UAEにおける現在の民主化運動を論じる前に、まずは、現行の暫定憲法の下でいかなる民主主義が規定されているのか、民主主義の程度を計る上で目安となるであろうUAEの議会とはどのようなものかを見てみたい。

1971年に発布されたUAE暫定憲法は、国家の性格と目標を規定するその前文の中で、「イスラーム・アラブ社会の枠組の下……恐怖と怯えから自由な、包括的で代表制の民主政権へのステップを進めるべく……」とその目標を規定している。本文においては、国民の平等（第14条）、法の下国民の平等と自由が保証されている（第25条並びに第26条）。

国民の政治への参加という観点から見れば、暫定憲法は、連邦国民評議会（Federal National Council。以下FNC）に関し規定している。このFNCは、各首長国毎に割り振られた評議員定数に従い³⁾（第68条）、各首長国が定めた任意の方法で選出された評議員により構成され（第69条）、評議員任期は2年で、再選可能である（第72条）。右評議会は原則として公開制であり（第86条）、FNC議員は、評議会における発言に責任を負わされることはない（第81条）。またFNC議員は、個々の出身首長国のみならず連邦国民のすべてを代表している（第77条）。

FNCの主要な権限に関して暫定憲法は、閣議で了承された連邦法（第89条）、一般会計予算と予算報告（第90条）が連邦最高評議会に上程する前に審議を行い、国際的な条約、合意等に関し政府より報告を受けること（第

91条) になっている。

UAEの暫定憲法は、この様に民主主義の基礎に立った国民の権利、緩やかな間接民主制及び諮問機関としてのFNCの設立に関し規定する一方で、イスラーム的価値観に基づく伝統的な社会・政治体制を尊重している。

III

湾岸において民主化に関する議論が行われる場合、必ずと言ってよいほど取り上げられるのは、部族またはイスラーム的な価値観に基づいた広義の意味での伝統的な民主主義である。それではそもそも伝統的な民主主義とはどのようなものであるのだろうか。

UAEは、簡単に言えば各首長国を支配する部族を率いる人物が首長となり⁴⁾、首長国においては首長が、連邦においては首長達が構成する連邦最高評議会が非常に大きな権限を行使する⁵⁾等、部族的な基礎の上に成立した首長国により構成される連邦制国家と言えるであろう。この部族制度は、家族を基礎とした血縁・地縁により結ばれているが、国家のシステムとしては民衆に閉ざされた感がしばしば持たれている伝統的部族的体制も、その実、下記のような民主的な制度を有しているのである。

(a) マジュリス

各氏部族の族長⁶⁾や、共同体において政治・経済・社会的な力を有する人々は、しばしば伝統的なマジュリス⁷⁾を主宰し、調停、政策決定に対する民衆の意見の反映、福祉や宗教面で大きな役割を果たしてきた⁸⁾。特に遊牧民の部族長、部族連合または定住民の地域共同体の指導者及び首長にとって、共同体の長老達を集めたマジュリスを主宰し、協議を通じて合意を得ることは基本的かつ必要なことであった⁹⁾。マジュリスに参加するのは通常、男性、しかも家夫長が多いが、未成年男子達もしばしば家夫長に連れられて参加し

ている。

(b) 首長の選出方法と罷免

首長は氏部族を束ねる首長家の中から選出されることが普通であったが、歴史上決して長子相続等の世襲制度が確立されていたわけではない。首長を選出する際には、通常、氏部族の代表または長老達が協議によって新たな首長を選出し、この新首長が成人男子大衆の前で宣誓を行い、これを大衆が承認 (Mubayiah) することが必要であった¹⁰⁾。

伝統的な部族社会において、首長もしくは連合部族の長の政策が大衆により支持されない場合、指導者の決定は拘束力の無いものと見なされ、この指導者は長老達の意見を採用するよう圧力をかけられた。さらに首長に対するこれらの働きかけが功を奏しない場合には、新たな指導者が選出された。このような場合の政権交替には「しばしば暴力がともなったが、平和的な政権交替の例のほうが多かった」¹¹⁾。

(c) 税金

19世紀以降、部族連合の長としての首長制度が確立すると、民衆により選出されたもしくは承認を受けた首長達は、収入、財産、貿易、船舶、真珠等の漁獲に税金をかけた。これらの税金の多くはしばしば首長達の財産となったが¹²⁾、民衆は、税金を支払う代わりに首長達に対し、氏部族内で解決できない紛争の仲裁、安全保障、裁判、外交等の役割を期待し、前述のマジュリスを開催し民衆の意見を政策に反映することを要求してきた。

(d) 重要な事項における民衆の声の反映

伝統的な部族を基礎とした社会においては、王宮革命や安全保障等の問題といった、重要な事件や政策決定にも民衆の意向がしばしば反映された。例えば、アブ・ダビ首長家の中でも大きな権力を保持したハリーフア首長が1833年に3人の首長家内の要人をアブ・ダビより追放した際には、民衆による強い不満表明があり、結果としてこの措置を撤回せざるを得なくなったように¹³⁾、伝統的な社会においては、たとえ一族内の問題であってもしばし

ば民衆の意向が強く反映されたのである。

(e) 仲裁とイスラーム法学者

ほとんどの湾岸諸国では、通常の紛争仲裁は部族や家族内で調停を行ったが、かかる調停で決着がつかない場合のみ、首長に紛争が委ねられることが多かった¹⁴⁾。このような仲裁には伝統的な慣習や首長の協議を通じた妥協案の提示等が用いられたが、部族が抱える、もしくは地域のイスラーム法学者の意見も非常にしばしば尊重された¹⁵⁾。

IV

UAEにおける民主化運動は今に始まったものではなく、過去においても様々な要求がなされてきた。本章では、その中でも特に重要なもの、そして今日のUAEの民主化運動が要求しているものに関し議論を進めていきたい。

ドバイの市評議会

真珠業の衰退を背景として1938年、首長国の収入配分に関しサイド・ドバイ首長と複数の部族同盟の間で抗争が起き、アブ・ダビ首長等の仲介により、ドバイ首長を長とし、市の有力者達が推挙した議員により構成される市評議会が設立された。市評議会の協議の結果、貿易等から得られるドバイ首長国の収入を、首長ではなく国家の収入とし、国家収入の8分の1を首長が得ることで合意がなされた。結局市評議会は、首長の支持により後にドバイ首長となる首長の息子ラーシドと遊牧民連合の武力による介入により半年を経ずして解散されるが、この事件を契機に首長家は信頼及び商人・水産業者層の支持を失い、1939年、サイド首長はドバイ首長国の内政事項を長男ラーシドに譲り渡すこととなる。市評議会指導者達を武力により殺害・平

定したラーシドは、後年政治改革に努めこの時市評議会が行った提言のほとんどを実現すると共に、調停等の部族社会における首長の役割を果たし徐々に信頼を回復していく¹⁶⁾。この短い民主主義とその後の経験は、ドバイの人々にドバイ国民としての意識を与え、大衆がイニシアティブを採った民主主義の強力さを知らしめることとなる。

1979年の民主化運動

1979年2月、FNCと内閣は合同会議を開催し、連邦最高評議会に建白書を提出する。この建白書は、連邦制の強化等、様々な要求を行っているが、民主化運動の観点から重要なものは以下の3点である。

- (a) 国家の政策を決定する連邦最高評議会は定期的に毎月協議を行うべきである。
- (b) 人民が生きるための糧のみならず、国民は、民主的に生まれ、イスラームの教えに適った民主主義的な方法で国家の政策決定に参加するべく言論の自由が与えられなければならない。
- (c) 基本的な要求として、FNCは単に諮問的な役割を果たすのみならず、完全な立法権を付与されなければならない。

この建白書に関し、ハード・ベイ・アブ・ダビ文化財団研究員は、「そこには1人1票の原則に基づく選挙への言及はなく……政党が存在しない状況下、地域社会の伝統的な指導者層は人民の代表として適当と見なされている」と指摘している¹⁷⁾。この建白書に関し更に議論を重ねることは重要ではあるが、ここでは、ハード・ベイ研究員の指摘を受け、この建白書の前提が、各首長国の首長達による国家最高機関並びに連邦制の維持、イスラームと伝統的な社会の存在であることを確認するにとどめたい。

他方、同年9月には、学生等を主体とするデモが起こり、連邦制の強化を要求する建白書を連邦最高評議会に対し提出するという大衆行動が起こった。このデモ並びに前述のFNCと内閣の建白書提出は、民衆の声を伝統的な社

会システムに則らずに指導者層に伝えるUAEの歴史には例のない運動であった。

今日における民主化の要請

近年湾岸諸国において民主化運動が目立ってきていることは前述の通りであるが、UAEでは民主化に関してどのような要求が出ているのであろうか。

(a) FNC議員の選挙による選出

暫定憲法ではFNC議員の選出方法は各首長国が任意にこれを定められているが、実情を見ればすべての首長国で評議員は首長により任命されている。この任命制を公選に変えようとする要求は強く、穏健派に属するアル＝ムハイラビーFNC議長ですら、議長就任を前にして、FNC議員の公選実施は時期早尚としながらも、「我々は真の民主主義を行使する選挙制を目指している」と発言している¹⁸⁾。

首長によるFNC議員の任命制は、議員を首長の一定の影響力下に置くこととなり¹⁹⁾、結果、FNCの中立性を保証するものとなっていない。また、アブドゥッラーUAE大学教授は、首長によるFNC議員の任命制は、内外に對しあまり好ましくない印象を与えるのみならず、国民並びに議員双方に、国民により選出されたのではなく首長により選出されたがために、議員は首長に對し責任を負っているとの印象を与えると指摘している²⁰⁾。

(b) FNCの権限拡大

FNCは議会と言っても立法権を有するものではなく、国家の諮問的な機関にすぎない。FNCは閣議で審議を了した法案の見直しを提言できる権限を有しているが、FNCにより差し戻された法案を閣議が再度審議し、当初の法案に問題無しと判断した場合には、再度FNCに法案を通すこと無く最高評議会に法案を上程することができ、最高評議会がこれを適当と認めた場合には法案が成立する²¹⁾。

また、暫定憲法第92条は、閣議がある特定の議題をFNCで協議すること

が国家の高次の利益に反すると判断した場合、FNCは右議題を審議に付すことができない旨定めているが、ビン・ハーデル議員の発言によれば、実際には、FNCが審議できるのは、政府の許可が得られた事項のみである²²⁾。更に、FNCが何等かの理由で休会中の場合には、法案をFNCに諮る必要はなく、例えば毎年度の予算はFNCが休会中に審議・成立することが多いのが現状である。

このような実態に鑑み、FNCの権限拡大を求める声は多い。権限拡大要求の声はほとんど1点に集約され、それはすなわちFNCへの立法権付与とこの目的実現のための憲法改正もしくは恒久憲法導入である²³⁾。

UAEの憲法を研究しているバティーハ教授の言を借りれば、真の代議員制度に関し、選出された代議員が真の統治の権限を有していること、議員の任期が定まっていること、代議員が共同体のすべてを代表していること、代議員が（首長から）独立していること、を成立の要件としている²⁴⁾。しかし、FNCは十分な権限を有してはおらず、公選制を導入していないがために共同体を代表しているとは思われていないばかりか議員の独立性も保証されていないと言えよう。また、公選制に関しては、英国の湾岸地域からの撤退を前にしてバハレーンとカタルを加えた9カ国による連邦制樹立協議の際に決定された恒久憲法案で、公選による評議員の選出が述べられている¹⁰⁾ことから伺われるように、かつては公選制を導入する動きも見られたのである。

(c) その他

前述の民主化要求の他、現在見られる民主化要求の中には、議会の公開制の保証がある。暫定憲法の規定によれば、FNCは原則公開制であるが、実情は異なるようで、マス・コミを含めた一般に対する議会のいっそうの公開を求める声がある²⁵⁾。また、今のところ大きな問題にはなっていないが、新聞等で女性に対する参政権付与の問題が議論されることもあるが、女性に対する参政権付与には一般に否定的な意見が多い。

V

UAEにおける民主化運動は、大雑把に言えば、国民の声の政治への反映、政治の透明性の増大及び議会により大きな権限を与えることを要求しており、決して首長から政権を奪取するとか、首長の権限を大きく制限することを目指しているわけではない。

他方、伝統的にUAEが有していた民主主義は、このような民主化の要請に基本的に応え得るものである。伝統的な社会においては、部族的な制度を通じた大衆の意見の吸収とマジュリスによって、国民の声は政治に反映され、部族の長老達によって構成される諮問機関は、首長の任免を担うほど大きな権限を有していたのである。

であるならばなぜ現在民主化運動が起こっているのだろうか。1938年のドバイにおける民主化運動の結末が大衆の期待に応え得る部族制度の復活であったように、現在の民主化運動も伝統的な民主主義を目指しているのだろうか。あるいは、この運動は国内的・社会的な要請ではなく、単に外圧によってもたらされたものなのか。

UAEの民主化運動は、前章で議論したように湾岸戦争後の西欧諸国からの民主化に対する外圧が来た時期と一致してはいない。また、西欧的な民主主義をそのまま適用しようとする民主化推進論者は少数派にすぎず、伝統的な民主主義を賞賛すると同時に民主化の推進を訴える人々が多いことも事実である²⁷⁾。

現代においては伝統的な民主主義を尊重しながらも新たに民主化を要請する背景が存在するのではないだろうか。また、西欧的な民主主義ではなく固有の民主主義を要請するような固有の背景も存在するのではないだろうか。

伝統的な民主主義社会の変質

石油が発見され国が豊かになると、遊牧・真珠・夏目椰子栽培業等を通じ

それぞれに役割を負った連合部族、また部族内でも様々な位階構造と役割分担に基づいた伝統的な経済構造²⁸⁾が崩壊し、石油産業や金融業といった業種に就く人々が多くなった。伝統的な経済システムの変化は、女性の社会進出を呼び、部族社会の基礎である家族の価値と存在形態が変質した。さらに、様々な社会サービスが拡充され、家族や部族の有する社会的な役割の重要性も減じることとなった²⁹⁾。さらに経済構造の変化に伴い、若者達を中心に職を求める人々の都市への人口移動が起こったが、それは伝統的な家族・部族の紐帯を弱める結果をもたらした³⁰⁾。このような社会の変質もしくは伝統的な社会体制からの脱却は、伝統的な民主主義を享受させていた既存のシステムをも変化させたと言える。この点に関し、筆者がUAEにおいて行ったインタビュー等を通じて知り得た変化を第Ⅲ章における議論を基礎として示せば以下の通りとなる。

(a) マジュリス

今日、伝統的なマジュリスは、必ずしも首長や有力者の義務になっていないようである。伝統的な部族制度は、家族、氏族、部族を通じて大衆の意見を吸い上げていた。この意見は、長老達が構成する、もしくは国民が任意に参加するマジュリスにおいて表明され、それが為政者の政策決定に反映されてきた。しかし現代に入って、部族制度の基盤が徐々に揺らいで来ると、大衆の意見を吸い上げる部族内や首長と首長国住民の間の連絡は疎になっていった。

歴史的に、マジュリスを開催することは首長の義務であり、大衆は税金を首長に納める代償としてマジュリスを首長に主宰させ、納得のいく形で政策が決定されるよう求めることができた。しかし、首長が富と権力を独占して、民衆の納税を免除し、マジュリス開催における義務的な意味合いが稀薄になるにつれ、マジュリスが開催されなくなったり、あるいは原則万民に公開されているはずのマジュリスへの出席者が限定され、大衆が例えば首長のマジュリスに参加したり、民衆の意見が政治に反映される機会は少なくなっていっ

た。

(b) 首長の選出方法と罷免

伝統的な社会においては、首長は、大衆の承認を経て首長家より選出され、また国民は首長の罷免についても大きな発言力を有していた。しかし近年では首長職は、首長家の内部で排他的に決定・選出される。それは実質的な世襲制であり、少なくとも直接的には、首長の継承に国民の発言が反映されることはなくなってきた。かつては首長は民衆の協議と承認により選出されたがために、UAEを構成する首長国のうちカワーシム家を除けば皇太子は置かれていなかったが、現在ではこのような状況を背景に、すべての首長国で皇太子職が制度として置かれることとなったのである。

更に首長の罷免についてであるが、首長国が近代的な政府としてシステム化した現在でも大衆による首長の罷免は制度として存在せず、また首長に富と権力が集まっている現在の状況では、大衆が首長を罷免するような事態は非常に想像しにくいのが現状である。

(c) 重要な事項における民衆の声の反映

大統領を始めとする各首長は、しばしばマジュリスや国内巡幸、鷹狩り等の機会を利用し国民と接触、意見を交換しているが、首長の開催するマジュリスが変質し、また首長に権力が集中すると共に部族社会の分断が進められた結果首長と民衆の力の差が大きくなっている現代においては、かつて程民衆の声が政策決定に反映しているとは思えないし、この点に関する不満も時折耳にすることができる。

更に伝統的な社会における首長の役割を官僚制度が代行するようになり、民衆と首長の間はいっそう広がっていったのである。例えば首長はしばしば国家における司法機関と同様の役割を果たし、またそれ以上に紛争を收拾するための仲裁の役割を負っていたが、現代では近代的な司法システムがその多くを担っているのである³¹⁾。

この様に、社会の変質に伴い伝統的な民主主義システムは衰退・変化して

おり、それに代替するシステムは育っていない。UAEは、伝統的な部族社会の中で育ってきた首長制度という伝統的なシステムを前提とした国家であるにもかかわらず、そのシステムは変質し、必ずしも十分に機能しなくなってきた。また、UAEは確かに法治国家、共和制国家で、代議員制度を導入しているが、近年の民主化運動を見る限りでは、それは変質した社会が要請する民主主義、伝統的な民主主義の補完を成し遂げるものとはなっていないようである。このような現実を背景として、伝統的システムに代替もしくは補完し得るものが求められ、民主化要求や、あるいはここでは議論しないが伝統的な部族制度を補完し得る分野におけるイスラーム復興運動を通じた要求等が現れる背景となっているとは言えないだろうか。

VI

西欧の民主主義、当該地域に根差した伝統的なあるいはイスラーム的な民主主義。この両者は、民衆の政治参加を基礎とするものであり、時には代議員的な制度——伝統的なシステムの中では氏部族や家族を代表するものによる各構成員の意見の代弁——を媒介し、異なった背景と利益を有する集団がそれぞれの意見を表明していくものである。しかし、伝統的な社会の変質は、ただちに西欧的な民主主義を完全に導入することを意味してはいない。UAEのみならず、アラブ・中東地域においては、以下の通り、しばしば彼等の伝統的な価値観に基づく民主主義の導入が強調されるのである。

我々がいま必要としているのは、我々の環境、利益、アラブの本質から発露した、我々の立場を改善する、我々自信の言葉で語れる何かである。湾岸の人間として我々はかような民主主義の実現を目指し、それゆえ、西欧の民主主義を尊重こそするものの採用すべきではない。外国か

ら与えられたいかなる民主主義も我々を助けはせず、特に西欧のそれは彼等の利益に基づくだけのものである³²⁾。

このような主張は、衰えてきているとは言え伝統的な社会システムがいまだ存在していることを意味してはいないだろうか。例えば、アフメド・ハッダード博士の、民衆の意見の政策への反映はよりいっそう拡大されるべきであるが、女性の政治への直接的な参加は、社会の変質をもたらすことになるので反対である旨の指摘³³⁾は、非常に示唆深いように思われる。この発言は現行の社会システムの中で女性の政治への意見の反映が保証されていることを前提にしているように思われるのである。伝統的な民主主義では、支部族長、長老または家夫長が承認や協議といった方法で意見の表明や選挙に準ずる制度に参加することはあるが、女性までを含めたすべての個々人が直接的に意見を表明することはない。しかし、このことは女性や家族の構成員達の意見が尊重されず政治に反映されないことを意味してはおらず、家族の中で、あるいは部族社会のそれぞれの集団の中で構成員の意見が吸い上げられていく制度を前提としているのである。

伝統的な社会契約説においては「個」がそれぞれの有する自由を供出し契約を締結、結果社会を構成するとされているように、西欧的な社会の中では、その最小単位は通常「個」である。これに対しアラブ・イスラーム的な社会での最小単位は、通常「家族」であり³⁴⁾、時にはその固有の関係性の中で部族や社会自体が単位となり得るのである³⁵⁾。このような社会の特性が存続している限りにおいては、社会から独立した均質な「個」を第一の前提とし、すべての国民がこの「個」であることに基づく西欧型の民主主義は、受け入れることが難しいのである。

また、「個」を基礎とした多数決の原理による決定方法も必ずしも伝統的な民主主義とは相容れない一面を有している。民主主義社会においてしばしば問題となるのは、社会・民族・宗教的な少数派の意見の尊重で、多数決の

論理に従えば、少数派の意見が無視されることにも繋がりがねず、この問題にいかに対処するかが重要な課題となっている。他方、伝統的な社会では、部族や首長国間相互の関係及び重要な政治的決定を行うにあたっては、協議、調停、さらには首長による共同体構成員の説得という側面が強調されてきた。この点、FNCが諮問的な役割しか果たさないこと及び首長が調停等の役割を必ずしも十全に果していない現状に不満が表明されながらも、前述の1979年の建白書において民主化の名の下に伝統的な首長の役割——十分な協議——の復活に対する期待も表明されていること³⁶⁾は興味深い。

VII

以上議論してきたように、UAEにおける民主化の要請は、社会の変質に基づいた内部からの運動であった。そしてUAEの伝統的な民主主義の変質への経過の中で、西欧的な民主主義の経験を伝統的な価値観といかに調和させていくかという試みであるように思われるのである。湾岸危機以来の諸外国からの民主化推進の圧力は決して無視できるものではないが、この意味でUAEにおける民主化運動は決して外圧のみに基づくものではないのである。

しばしば第三世界の民主化は、民主主義の欠如した後進的なシステムから、民衆の権利を尊重する方向に向かう運動であるにとらえられがちであるが、今まで議論してきたように、少なくともUAEにおける民主化は、後進的なシステムからの脱却でも支配層から民衆が政治的権限を勝ち取るための運動でもなかった。それは社会の変質が、伝統的な価値観を尊重しながらも新たなシステムを要請した自己変革への試みであったのである。

最後に、これまで議論してきたUAEにおける伝統的な社会の変質と民主主義の関係に鑑み、イスラーム的な固有の価値観を共有し、しばしば伝統的な社会システムを維持し続けているアラブ諸国における民主化運動を語る際

には、民主化運動を要請する背景、民主主義が適用される環境を考察することの重要性を提起して、本稿のまとめと代えることとしたい。

注

- 1) 建白書の詳細に関しては、1991年8月1日付ロンドン発行『Al Quds l Arabi』紙参照。
- 2) ワリード・カッジーハ「アラブ社会における民主化への模索」『中東協力センター・ニュース』1993年2月号、東京、中東協力センター、1993年。
- 3) 議員定数40の内、アブ・ダビ並びにドバイ首長国が各8議席、シャルジャ並びにラース・ル=ハイマが各6議席、その他のアジュマン、オンム・ル=カイワイン及びフジャイラ首長国が各4議席を割りあてられている。
- 4) アブ・ダビ、シャルジャ、ラース・ル=ハイマでは、おおよそ各首長国を単位とする部族連合を率いてきた家もしくは部族が首長家となり、オンム・ル=カイワインやフジャイラでは、それぞれの首長国の最大部族から首長が輩出されている。
- 5) 連邦最高評議会は、そのメンバーたる各首長の互選により大統領並びに副大統領を選出する他、立法権と行政権を実質的に独占している。
- 6) 通常、タミーマもしくはシェイフと呼称されている。
- 7) 語義的には座ることもしくは座って協議することを意味し、クルアーンにあるシューラーを基礎とする、広義の意味での民主的な協議の場。
- 8) Henderson, Edward, *This Strange Eventful History*, London, Quartet Books, 1988, p. 28.
- 9) *Ibid.*, p. 29.
- 10) *Ibid.*, p. 28.
- 11) *Ibid.*
- 12) Heard-Bay, Frauke, *The Trucial States to United Arab Emirates*, London, Longman, 1984, pp. 114-118.
- 13) Handhal, Faleh, *Al Mufasssil fi Tarikh l Imarat l Arabiyat l Muttahidat Part II*, Abu Dhabi, UAE Heritage and History Committee, 1983, pp. 474-476.
- 14) Heard-Bay, p. 121.

- 15) Henderson, p. 29. 通常、遊牧民の場合には部族が、定住民の場合には共同体が、法学者を抱えていた。
- 16) Abdullah, Muhammad Morsy, *The United Arab Emirates*, London, Croom Helm London, 1978, pp. 126-132.
- 17) Heard-Bay, p. 399.
- 18) シャルジャ発行『アル=シュルーク』誌、1993年1月28-2月3日号。
- 19) アブ・ダビ選出のマズルーイ議員は、アブ・ダビの港湾事業に関しザイド大統領兼任アブ・ダビ首長に苦言を呈したために1993年に選出されたFNCには選出されなかったと言われている。
- 20) 1993年4月3日付シャルジャ発行『アル=ハリージ』紙の意見記事。
- 21) 暫定憲法第110条。
- 22) 1993年3月9日付『アル=ハリージ』紙。
- 23) 1993年4月3日付『アル=ハリージ』紙に掲載されたアブドゥッラー教授の意見記事。
- 24) Batikh, Ramadhan Muhammad, *Tatawwarat l Fikr l Siyasi wal Dostori fi Dault l Imarat l Arabiyat l Muttahidat*, Abu Dhabi, Al Muassasat l Ain Lil Ialan wal Tauziat wal Nashrat, N.D., p. 115.
- 25) *Ibid.*, p. 117.
- 26) 一般にFNCに関する報道は、秘密会議が行われる場合以外は国内でも詳細に報道されているが、公開会議が常に不特定多数に開かれているわけではないようである。アル=マズルーイ議員は、FNCは国民が自由に議会を傍聴する権利を行使できるようにする計画を有しており、現在右協議中であると述べている。1993年3月2日付『アル=ハリージ』紙。
- 27) 1993年2月28日に、アブ・ダビにおいて開催されたFNC議員を囲む懇話会において、スレイマーン・アル=ジャーシムは、「アラブのベドウィンのシステムは民主主義の遺産である。このような開かれた集会はその1つの形態である。我々は外国からやってきたモデルなど欲してはいない。我々の慣習に相應する民主主義の形態を採用することが必要なのである。我々はすべての意味の民主主義を模索していかなければならない。」と述べている。1993年3月2日付『アル=ハリージ』紙。
- 28) 伝統的な経済構造に関しては、Heard-Bay, 第5章参照。

- 29) Muhammad, Dr. Abbas Ahmed, "Mushakkilat l Asriyat wal Tanshiat l Ijtimaiya fil Imarat," in Jama'iyat l Ijtimaiin (ed.), *Al Mushakkilat l Ijtimaiyat fil Imarat*, Sharja, UAE, Jama'iyat l Ijtimaiin, 1993, p. 106.
- 30) Maahad l Buhuth wal Dirasat l Arabiyat (ed.), *Daulat l Imarat l Arabiyat l Muttahidat*, Cairo, 1978, p. 623.
- 31) Henderson, pp. 32-33.
- 32) 『アル=シュルーク』誌、1993年1月28日号。
- 33) 1993年6月22日付『アル=ハリージ』紙。
- 34) UAE暫定憲法第15条は、「家族は社会の基礎である」と定められている。
- 35) イスラーム社会の関係性と「個」については、黒田壽郎教授が非常に示唆深い議論を行っている。黒田壽郎「イスラーム世界の社会編成原理」黒田壽郎編『中東における国家と国際関係』新潟、国際大学中東研究所、1990年、14-16頁。
- 36) Heard-Bay, p. 399.

キーワード：民主主義、個と共同体、部族、UAE 社会の変遷、首長

Social Change and Democratization in the Gulf Region: Through the Experience of the United Arab Emirates

by Motohiro OONO

In the Gulf region there have been a series of movements called “democratization,” which requires the political participation of the population in the decision-making process. Facing this democratization movement, the Gulf countries somehow need to promote democratization and expand the sphere of participation of the populace.

In this study, this democratization in the Gulf will be discussed through the experience of the United Arab Emirates, (hereafter UAE), based on the following questions:

- a) Is it an adequate assumption that democratization in the Gulf has been the process whereby politically underdeveloped countries, which previously have not had a democratic system, adopt democracy?
- b) Has it been the wish of the Gulf countries and their people to introduce the so-called Western-style democracy?
- c) Although pressure from the outside to proceed with democratization since the end of the Gulf War is one of the

significant reasons for this movement, as many scholars and specialists have pointed out, is it the only and main reason?

The provisional constitution of the UAE, promulgated in 1971, puts one of its political and democratic goals as "progressing by steps towards a comprehensive, representative and democratic regime in an Islamic and Arab society free from fear and anxiety," and regulates the establishment of the Federal National Council, (hereafter FNC), as a consultative body for the federation. It seems that this constitution has high ambitions, but does not yet fully realize democracy.

On the other hand, the tribal and traditional systems, which the people of the UAE have shared, have had a kind of democracy. During discussions of democratization in the Gulf among the local people, almost always this tribal and traditional democracy has been pointed out. The UAE is a federal polity consisting of 7 Emirates: Abu Dhabi, Dubai, Sharjah, Ra's al Khaimah, Ajman, Umm al Qaiwain and Fujairah. The Emir enjoys paramount political power derived from tribal structure as a leader of the tribal federation or tribal stratum in the Emirate. He has the highest legislative and administrative power in the Emirate and also appoints the members of the FNC. At the federal level, the Supreme National Council, whose membership is limited to the Emir, has enjoyed supremacy in federal politics as regulated in the constitution.

Although this political system appears to block the voice of the people, as seen in the autocratic polity, there has been a certain system which respects and reflects the opinion of the population through their tribal and traditional system.

Majlis, which literally means to sit down or to sit down to confer or discuss, has been given as a typical example of this tribal and traditional

democracy. In the Majlis, the Emir or Sheikhs of the tribal federation have had the responsibility to learn the opinions and complaints of the members through consultation.

Even the appointment and dismissal of the Emir was often at the hand of the people. The Emir had usually been chosen from among members of specific families heading the tribe and/or tribal federation through consultation among representatives and/or seniors of the tribe or tribal federation. After that, it had been necessary for the male members of the tribe and tribal federation to endorse the appointment or nomination. If it were the case that the Emir's decision or policy was not supported by the people, the seniors would try to convince the Emir to revise his decision or policy. In this process, sometimes the withdrawal of the decision by the Emir could be observed. If this conflict was not resolved, then a new leader would be chosen. Historically, the Emir exclusively enjoyed the ability to impose taxes. In return for collecting the taxes, the Emir was requested to fulfill his effective responsibility in mediation of disputes, security arrangements and so on.

Despite existence of the aforementioned tribal and traditional democracy, there have been several democratizing movements in the UAE. In 1938, a dispute between several tribal powers and the Emir of Dubai occurred. As a result of a series of mediation efforts, the Dubai Municipal Council, consisting of the Emir and the rival force, was established to arrange for the allocation of the Dubai's revenue between the Emir and the people. However, in the following year, the council was dissolved by the force of the Emir. Because of this incident, which was against the rule established through tribal and traditional politics, he lost the support and confidence of the people.

A proposal was submitted jointly from the FNC and the Cabinet to the Supreme Council in 1979. It requested regular meetings of the Supreme Council, increasing the democratic atmosphere among the citizens of the federation and granting full legislative power to the FNC. There was no reference to elections or a drastic change of the traditional system in the proposal. Rather, the main emphasis in this proposal was the polity of the Emirate based on the tribal system.

The current democratic movement requires to strengthen the FNC by granting legislative power and establishing an electoral system to choose its members. It is worth mentioning that most of the people who tried to proceed with a more democratic policy in the UAE strongly emphasized the importance of their tradition and their own tribal democratic system while rejecting the introduction of Western democracy as a whole.

On the other hand, although the requirement in the current democratic movement can be realized in the tribal and traditional democratic system, the democratic movement in the UAE has in fact emerged. Does this mean that pressure from the outside, especially carried out after the Gulf Crisis, has promoted the current democratization? The democratization did not start just after the Gulf Crisis, rather it is a long continuous movement. If so, can the tribal and traditional democracy no longer respond to popular demand? It is not sure whether the tribal and traditional democracy can respond sufficiently to modern political demand, but it is also true that there have been some changes in the society that might create circumstances to deter executing the tribal and traditional system.

Discovery of oil and other mineral resources makes a country rich while collapsing the traditional system. The existing traditional

economic structure, which has also been one of the bases for the tribal society, was replaced and the new system has encouraged labor to migrate to metropolitan Centers. As a result of this economic change, ties among members of the tribal and traditional community have been weakened. An exemption of tax in many fields, including income tax, has also released the Emir from being bound to his tax-based responsibilities. For example, the Emir's Majlis is not held as often as before. Also, people are no longer in the position to commit themselves to the process to appoint and dismiss their rulers. Although it is true that the rulers have endeavored to listen to the opinion of the people even today, the voice of the citizen is not as big as before.

Despite this social change, which discourages the fulfillment of the tribal and traditional democracy, alternatives cannot be found. This change and the current situation can be said to serve as a background in the search for democracy in the UAE.

The democracy emphasized is a system that is compatible with their society and system which has existed for a long time. For example, in the society whose basic element is a family organized in the traditional network, granting votes to all individuals and making decisions by a simple majority rather than respecting consultation is not easily accepted. It means that the traditional social system which existed cannot be neglected despite the changes leading to democratization.

The experience of the UAE has been a trial harmonizing democracy and their own sense of value through its social change. Democratization in the UAE is not the process to introduce Western-style democracy into the politically underdeveloped society in terms of democracy. This paper shall be concluded by emphasizing the importance and necessity for

examining the background requesting democracy whenever democratization in the Arab countries is discussed since the Arab society has had its own unique system and experiences.